

祖母との日々

東京都文京区立第一中学校 3年
東 義明

私は最近、税金という存在を身近に感じるようになった。それは、私の祖母がデイサービスに通うようになったからだ。

デイサービスとは通所介護とも呼ばれるサービスで、高齢者が要介護状態となった場合にも、できる限り自宅で自立した日常生活を営むことができるように、必要な世話や機能訓練を行ってもらえるサービスだ。

祖母は私と同じマンションの別階に住んでいる。だから、エレベーターに乗ればすぐに会える。私はこの環境が大好きだった。しかし祖母が年をとり、介護が必要となり、認知機能訓練や運動をさせてくれる誰かのサポートが必要になった。その時、高齢者施設に入所すべきか、もうしばらく自宅で過ごすかが問題となった。私は祖母がすぐには会えない遠い場所に行ってしまうのは嫌だった。しかし祖母には健康でいてほしかった。そんな時、主治医に勧められたのがデイサービスだった。それから祖母はサービスセンターに通い、運動や認知機能訓練をして、他の高齢者と楽しく会話し、たくさんのスタッフのもとで色々なサポートを受けている。みんなでゲームをしながら体を動かしたり、昔の歌を歌ったり、漢字テストや絵の間違い探しゲームをしたりもするそうだ。トイレに行く時もスタッフが付いてくれるので、とても安心だと祖母が話していた。

サービス内容が充実していると聞いたので、きっとたくさんのお金を払っているのだと思っていた。しかし、費用はいくらなのか聞いてみると、祖母の場合は六時間半で六百円ほどだった。負担しているのは一割だけで、九割は税金や年金で払われているのだという。収入が年金しかない祖母でも余裕を持ってサービスを受けることができるのだ。私はこの時、税金が祖母の生活と健康を支えてくれているということを実感した。

私の祖母は八十八歳になった。それでも祖母は今までと同じ自分の家で、元気に過ごしている。そしてなにより、私はこれまでと同じように祖母の家を頻繁に訪れ、祖母と楽しい思い出を日々作れている。この幸せは税金に支えられて成り立っているのだ。

誰かが払ってくれた税金が私と祖母の幸せな日々を支えてくれたように、私が払う税金もだれかの幸せを支えることができる。中学生が払える税金は、買い物で払う十パーセントの消費税というわずかなものだけだ。しかしこのお金で誰かの手助けをできるなら、払うお金はわずかでも大きな価値を持つと思う。私は今まで税金に対して「払わされる」という印象ばかりを持っていた。しかし、税金の必要性を知った今、税金が何に使われているのかをもっと知り、税金に「支えられている」ということを忘れてはいけないと思った。